



多面的な機能をもつ **森林** の特性を理解し、
自然環境との調和を保ちながら、
その多様な機能を持続的に利用する

森林資源環境学講座

<http://www.bio.mie-u.ac.jp/kankyo/shinrin/>

*Forest Resources and the Environment
Department of Environmental Science and Technology
Faculty of Bioresources
Mie University*

■ 次のような学生を求めます。

1. 森林の重要性、多様な機能に関心をもつ者。
2. 自然環境・森林資源などを地球的、地域の視点から多面的に理解し、自然環境との共生を考える能力、および、問題を解決する素養を身につけたい者。
3. 天然林・人工林や里山を含む森林、土砂災害現場、林業現場、山村地域や行政、企業、研究所などの現場を訪れ、自然現象や社会事象を見て学ぼうとする自発性と積極性を持つ者。
4. 専門分野に関する文章力、語学力を養うことにより、国際的に通用する基礎能力およびコミュニケーション力を身につける意欲のある者。

■ 取得できる資格

樹木医補
測量士補
高等学校教諭一種(理科・農業)
森林情報士2級(森林GIS)

■ 大学院 生物資源学研究科

共生環境学専攻
博士前期課程(森林資源環境学講座)
博士後期課程(環境保全学講座・環境創成学講座)

■ 卒業後の進路

国家・地方公務員
機構・団体職員
森林管理・経営関連企業
造園・緑化関連企業
環境技術コンサルタント
製紙・印刷関連企業
建材家具・住宅関連企業
化学工業関連企業 など



三重大学 生物資源学部 共生環境学科
森林資源環境学講座

〒514-8507 津市栗真町屋町1577

Tel: 059-232-1211(代) Fax: 059-231-9591



2011.07.26

三重大学 生物資源学部 共生環境学科

森林は巨大な生物群集

近年、地球温暖化や生物多様性の保全など地球規模での環境問題が取り上げられるようになりました。世界の陸地の30%を覆っている森林は、陸上の生物現存量の90%に達する巨大な生物群集であり、地球環境の維持に大きな役割を果たすと同時に、再生可能な資源としても注目されています。加えて国土保全・水源かん養・気候緩和などの環境調節機能ばかりでなく、緑の空間が精神的なやすらぎを与えるなど、森林は私たちの生活に物心両面で貢献しています。

森林資源環境学講座では、生態学・植物学・動物学・化学・物理学・社会科学・情報科学などの幅広い講義や、附属演習林における実習等を通して、このような多面的な機能をもつ森林の特性を理解し、自然環境との調和を保ちながら、その多様な機能を持続的に利用する方法を探求していきます。習得した専門知識、技術、能力を活用し、社会に貢献できる人材を送り出すことを教育の目的としています。



6 + α の科学の力 研究室

■ 森林保全生態学

教授／木佐貫博光

数多くの樹木によって構成される森林が、どのようなしくみで維持されているのかを明らかにするために、樹木や草本植物を対象とした植生学や生態学の研究を行っています。また、絶滅の危機にある植物や河川沿いの洪水に耐えることの出来る樹木など、植物の生理生態学的な性質を明らかにするために、温度や水分条件などをコントロールして植物を栽培し、植物の成長や生理状態の反応を比較する研究を行っています。

■ 森林環境砂防学

教授／山田 孝

土石流、泥流、地すべり、崩壊といった地表変動現象により、人類の生活・生産圏が一瞬の内に泥と岩と流木で埋め尽されるといった悲惨な土砂災害が世界で多発しています。土砂移動現象の実態とメカニズムの解明、砂防構造物による土砂移動現象の制御手法に加え、災害危険度の予測や地域減災力の強化などによる減災技術原理の解明と技術手法の開発を目指しています。さらに、土砂移動現象で荒廃・劣化した森林・流域環境の修復手法、森林域での水流出機構などについて研究を進めています。

■ 木質分子素材制御学

教授／船岡正光

准教授／野中 寛

特任准教授／青柳 充

樹木は、主としてセルロース、ヘミセルロース、リグニンからなる「リグノセルロース系素材」であり、自然界における蓄積量、リニューアブル性から、化石資源に替る次世代の物質・エネルギー資源としての可能性を秘めています。その生物素材としての機能を生かしたバイオ系新素材の設計と開発、ならびに、森林資源を材料、原料として持続的に利用するための先端的循環活用システムの構築を目指しています。

■ 附帯施設 演習林 准教授／万木 豊 准教授／沼本晋也

気象・フェノロジーのモニタリング、天然生林保全基礎調査、森林の理水機能と斜面安定効果、林業機械化と路網構造、森林GISと長伐期施業計画について教育・研究を行っています。

■ 森林総合環境学

特任教授／三井昭二 (H24.3月退職)

森林と人間との共生を求めるという視点から、森林の環境保全と持続的利用を図るための制度や政策について教育・研究する研究室です。具体的には、森林政策について、国際的観点や歴史的観点から広い視野を身につけ、地域の現場に入って実際の課題への対応を学びます。森林管理の公共性について、歴史的な視点と現代的な視点から学びます。そして、山村社会や林業経営を元気にするために、都市と山村との交流について学びます。

■ 森林環境資源利用学

教授／石川知明

准教授／板谷明美

森林の持続的な利用と適切な管理を目指して、現地調査を行い、また数理モデル、リモートセンシング、GISなどを活用し、森林利用学、森林情報学的手法によって「木材生産作業の低コスト化」、「森林ボランティアの活動支援」、「森林景観」、「森林内でのレクリエーション活動などによる癒しの効果」、また「森林の広域的な分布・動態・機能の把握・解明」などについて研究を行っています。

■ 木質資源環境工学

准教授／鈴木直之

助教／内迫貴幸

自然のサイクルに組み込まれ、人間の健康維持に優れた居住環境を形成する材料である木質資源を、特徴を生かしつつ各種の工学的変換を加えることにより、構造物や屋内外の環境形成素材として利用するための理論と技術について教育・研究を行っています。